昨年度のお金の使われ方をチェック！

決算特別委員会が平成30年度の決算審査を実施

議会は決算特別委員会を設置し、9月10日～12日に審査を行いました。この委員会は、平成30年度の予算が目的に沿って使われていたか審査し、改善点を市に伝え、今後の事業執行につなげてもらうための重要な役割を担っています。

一般会計の決算額

歳入　297億1，341万円

歳出　288億4，907万1千円

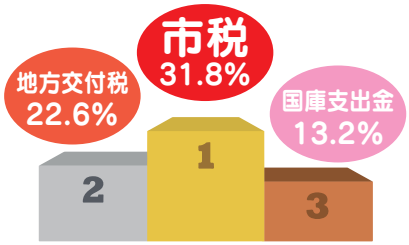
↓　歳出を人口（平成31年3月31日現在）で割ると

市民1人に使われたお金は…

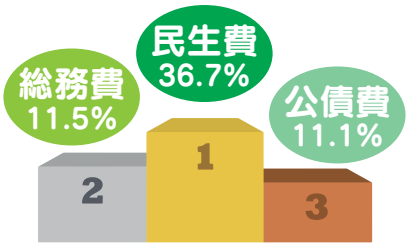
379，254円（災害復旧費含む）

歳入　市に入ったお金で多かったものは？

歳入では市税が最も多く、市の歳入の約3割を占め、94億円を超える収入がありました。



歳出　市が使ったお金で多かったものは？



歳出では民生費（福祉や医療対策）が最も多く、市民1人あたりに換算すると約14万円を費やしました。

どのような質疑と答弁がありましたか？

問　かさま陶芸の里ハーフマラソンの参加者が、減少傾向にあるが対策はあるか。【認定第1号】（スポーツ振興課所管）

答　新たな取組みとしては、HMCC（ハーフマラソンチャレンジカップ）として、大会記録を更新し優勝した人に、賞金が出る大会にした。また、SEA（スポーツ国際交流員）のアベベ・メコネン氏を広告塔として活動してもらうこととした。

問　電子入札は今後増えていくことが見込まれ、一層の利用促進を図ってほしいが、電子入札システムの使用実績及び使用料の料金設定はどのようになっているか。【認定第1号】（財政課所管）

答　平成30年度実績で、使用実績92件、システム使用料の料金設定は、県が開発したシステムで、県内25市町村が利用している。それぞれ利用実績に応じて支払いをしている。

問　担い手対策強化支援事業については、新規就農者の経営状況が問題であり就農者に対する指導をどのようにするのか。【認定第1号】（農政課所管）

答　経営が安定するまでの指導は、農政課が継続してサポートし、県農業総合支援センター農協で開催される農業経営塾や作物栽培研修会などを積極的に案内することで、安定した農業ができるようにしたい。

意見　営農を始めた当初だけでなく、2・3年後見捨てることのないように、サポートをしていただきたい。

問　政策調査事業の移住促進に係る試験的事業について、参加した若者は、笠間の魅力としてどういうものを求めているのか。【認定第1号】（企画政策課所管）

答　昨年度に1泊2日で農業体験ツアーを実施したが、自然環境の部分であったり、交通の便の良さや移住後の就労形態について意見が多かった。今後総合的な対策を構築していくため、県と連携していきながら進めていきたい。

3日間にわたり執行部との活発な質疑応答が交わされ、最終日に討論、採決を行い、認定第1号を賛成多数で、認定第2～5号を全会一致で原案のとおり認定すべきものとしました。

【決算特別委員会　委員】

委員長	田村泰之
副委員長	益子康子
委員	安見貴志
委員	内桶克之
委員	中野英一
委員	林田美代子
委員	村上寿之
委員	畑岡洋二
委員	西山猛